

**災害時避難に関するアンケート**  
**(9 月 30 日発送、10 月 15 日回答締め切り)**  
**85 件回収**

事業所所在地の担当包括： 中央…20 ・ 東部…18 ・ 西部…18 ・ 南部…13 ・ 北部…11  
市外…0 記入なし…5

**問1 台風の到来前後において、貴事業所ではどのような対応を行いましたか。**

**(事業所の運営について)**

- ・ 事業所の休業…22
- ・ 事業所の休業、短縮
- ・ 台風情報により事業所の休業決定
- ・ デイサービスの休業…4
- ・ 当日の通所利用を休業
- ・ 通いは前もって中止。
- ・ 休診
- ・ 台風接近予定の 2 日前に事業所の休業を決定した。
- ・ 事業所の休業 (9/7)
- ・ 9 月 7 日(月)の通所サービスの休業
- ・ 9 月 7 日(月)を休業とし、9 月 6 日(日)を振替営業した。
- ・ 最接近当日を前日利用変更し、当日は休業とした。
- ・ 午前中の休業
- ・ 2 日前に会議を行い、担当と当日の流れは確認していた。7 日は雨風で危険が伴うため、6 日に振替・営業時間を短縮しただけで、安全にサービス提供することができた。欠席者は 1 名のみ。
- ・ 事業所の休業を決め、利用者と家族・ケアマネージャーに連絡した。職員も基本休みを取り、台風対策で数名が対応にあたった。
- ・ 台風 10 号はまれにない大型の台風と予測されていたため、前日より通所介護を休館と判断し、ご家族等へ電話連絡、又文書に手も通知しました。ケアマネージャーにも連絡し、独居の方などにも対応してもらいました。(ショート調整など)
- ・ 通所事業所(デイケア・デイサービス)の休業を行った。(利用者には事前に通知)
- ・ 在宅の利用者は送迎困難が予想されたため予め休みの連絡を行い、同一建物内の利用者の方のみの受け入れとした。(通所介護)
- ・ 院長先生に前の日にデイケア営業について相談し、デイケア中止の判断をしてもらった。職員の休みを事前に連絡。また利用者家族にも早めに連絡できた。
- ・ 従来の連絡網よりもさらに詳しい家族等情報も加えたリスト作成
- ・ 各居宅事業所や家族、また本人へ臨時休業の連絡実施
- ・ 利用者様やご家族様、ケアマネージャー様に対して、利用時間短縮や事業所の休業の連絡。
- ・ 利用者の日程調整、それに伴うプラン調整・変更依頼
- ・ ご利用者様との利用の調整
- ・ 訪問時間を午後からに変更したり、曜日変更で対応した。(訪問系サービス)

- ・ 台風の予報前日、緊急性のない訪問は中止及び延期にしてもらう
- ・ 利用者の訪問日の変更またはキャンセル。

### **(職員のシフト調整)**

- ・ 職員のシフト調整…32
- ・ 出勤時間の調整…2
- ・ 職員勤務調整（テレワーク準備）
- ・ スタッフのシフト調整（近い方、遠い方）
- ・ 職員のシフト調整（翌日勤務者の前泊）
- ・ 職員のシフト調整、前日からの泊まり込み（一部の職員）
- ・ 職員のシフト変更及び交代
- ・ 宿直者の配置
- ・ 宿泊者の把握
- ・ 職員の確保
- ・ 事業所、柔軟な出勤体制申し合わせ
- ・ 緊急時に備え待機
- ・ 災害発生時の対応の為の職員配置及び調整
- ・ 各従業員の出社判断、行動基準を決める
- ・ 漏水対策のため見守り強化
- ・ 緊急時に備えての職員の宿泊
- ・ 通勤困難が予想されたため、前夜から泊まれるスタッフは施設内に泊り人員の確保を行った。
- ・ シフト調整、当日（台風直撃）勤務の職員さんに事前に出社してもらったりした。
- ・ 翌日勤務のスタッフ前夜より宿泊その他いろいろ実施した
- ・ 職員は前日から泊り（個人の意志に任せる）に来ていただき、無事に運営できた。
- ・ 泊りスタッフを増員した
- ・ 夜勤を2名体制にし万が一に備える
- ・ 夜勤、宿直以外のスタッフ配置（自主的な申し出や、各管理者からの打診等）
- ・ 月曜日のシフトをスライドさせた
- ・ 職員の宿泊場所の準備…2
- ・ 夜間帯は通常1ユニット1名体制であるが、1名ずつ増員し待機した。
- ・ 施設長、管理者のシフト調整をし、2名を泊り、2名を早出とした
- ・ スタッフに休み促し、管理者以外休みとした。（長崎寄りのコースであったため、通常勤務難しいと土曜日（5日）に判断。
- ・ 職員は自宅待機をしてもらい、台風の状況に合わせ、訪問に行かなくてはいけない処置を決め、自宅周辺の訪問に切り替えた。
- ・ お泊りの方のみに利用してもらうようスタッフも調整した。

### **(避難支援)**

- ・ 避難支援…2
- ・ 避難相談
- ・ 災害時の避難や対応の仕方を利用者へ伝達
- ・ 避難者（高齢者）のゲストルームの活用

- ・ 独居、高齢者世帯利用者の避難受け入れ
- ・ 管理者は個人宅の安否確認を行った。
- ・ 避難する利用者の避難場所の確認
- ・ 利用者様の避難場所のお知らせ、安否確認。
- ・ ご利用者の安否の確認。ご利用になるかの確認。
- ・ 利用者の避難に関する意向確認、短期入所の調整など
- ・ 利用調整行い、前泊受け入れ、通所日変更。
- ・ 短期入所利用の方で、入退所日が台風接近日時にかかる利用者に関してはケアマネ、家族と連絡し、延長などで対応した。
- ・ 利用者及び家族避難先確保（介護保険サービス以外も）
- ・ 独居の方は泊りサービス追加。
- ・ 宿泊追加（独居利用者）
- ・ 独居の利用者の臨時的な宿泊調整等
- ・ 避難先としてショートステイの利用を調整した。
- ・ 独居や避難の際に困難であろうケースをショート利用手配
- ・ 独居の方や介護が必要な方はお泊りにて対応した。
- ・ 独居の方に連絡し非難希望を確認、デイを休業し避難されるご利用者様を受け入れ
- ・ 独居利用者（家族の支援が難しい方）などへの前々日くらいから声掛け、家の周りの片づけの確認・手伝いなど、ヘルパー・サ責対応。
- ・ 独居の方に対しては事業所と連携をとって、ショートステイを利用していただいた。事前に雨戸を閉めたり、危険物を安全な所へ移動する。過ぎ去った後も雨戸を開けに行った。
- ・ 台風通過後、避難先確保できなかった方の安否確認。
- ・ 後日利用者への被害状況を尋ねた。
- ・ 独居等、飛散物、被害対応
- ・ 今回は避難支援を行っていないが、今後どのような支援が適切か考えていきたい。

### （食料等の備蓄の確保・対策）

- ・ 食料等の備蓄、確認、補充…27
- ・ 簡単に出来る食材を用意してメニューを決めておく
- ・ 停電を想定して食事のメニューを変更、パンの購入など
- ・ 食料は備蓄もありましたが、7日の食材が6日朝に届いたので7日分の食材を
- ・ 生活用品の確保
- ・ 食事提供は備蓄食料で対応
- ・ 食料品、水の確保（飲水とトイレ等用）
- ・ 台風の予測確認
- ・ 浴槽に水をためておく…2
- ・ 断水に備えて浴槽に水を張るなどした
- ・ 電気、水道が使えない時を想定し、発電機の準備、ポリ容器に水を汲んだりした。
- ・ 停電対策
- ・ 停電対策（発電機等準備）
- ・ 発電機準備…2

- ・ 停電時の必要物品確保
- ・ 充電できる吸引器の確保
- ・ 酸素ボンベ 吸引機準備
- ・ 電池
- ・ バッテリー、自家発電機チェック
- ・ 備品（電池・ライト補充）
- ・ カセットガス（予備購入）
- ・ 防災用具準備
- ・ 土のうの準備、ブルーシート確保
- ・ 非常時対策物品の確認と準備（コンパネ・ロープなど）
- ・ 台風の為施設養生など
- ・ 暴風被害対策（特に窓）
- ・ 玄関、窓のテープ張り
- ・ ガラス飛散防止対策…7
- ・ 入所居室の窓のカーテン、ロールカーテンを閉めテープで固定…2
- ・ 施設周囲の安全の確認…3
- ・ 建物周囲で飛びそうな物の屋内避難や固定（物干し台など）等の環境整備…7
- ・ 建物、車輛等の風対策…2
- ・ 台風通過後の施設建物周辺、施設建物内の被害確認
- ・ 前日からの院内待機所の設置
- ・ 泊りの利用者ベッドを窓から遠い場所に移動
- ・ 家具の移動

・ 気象庁からの情報（警報発令）により法人本部が緊急会議を行っている。本部からの大雨・暴風の度合いの報告に基づき準備を行った。特に大型で直撃の可能性が高い台風の場合は、入居者の安全確保（居室内）や屋外等を整備し、建物の安全性を確保している。食料や水等については、1～2 日分を確保している。 職員のシフトについては、管理職やその日の勤務予定者は施設で待機できる場所を提供している。出勤出来ない職員を予め確認し、出勤できる職員との調整を図っている。近隣の住民の方々については、避難場所が指定されている事から来られなかったが、緊急で施設に来られれば受け入れを行なうこととしている。

## 問2 貴事業所において、利用者・入居者以外の地域住民等の避難所としての利用はありましたか？

その時の状況を教えてください。

### 1. 地域住民等より求めがあったため利用があった…7

- ・ 前日に近所の方より、自宅の崩壊等を不安に思われた方から連絡があり、1 名を空床を利用し宿泊してもらった。いつも外来等を利用している方で、職員も顔なじみだったためスムーズに利用に至った。
- ・ 2 名の入院患者の家族からあった。コロナもあり迷った。
- ・ 地域からの依頼があり対応
- ・ 同じ事業所のケアマネが担当している方が、独居で一人では不安ということで 受け入れました。
- ・ 職員や利用者の家族が避難（施設関係者以外での地域住民の避難は無かった）

- ・自宅の老朽化や水害の影響への不安を抱える家族が施設（日中・グループホーム）を利用。外国籍の利用者は情報が伝わっておらず、こちらから避難利用を勧めた。
- ・自治会長より地域住民の受け入れ要請があり、1名の受け入れを行った。

## 2. 利用の求めはあったが、断った…5

- ・外部の方からの申し入れはなし。利用者ご家族からあったが、今回今までにない台風とのことで南側全面サッシで準備はしたものの、安全面ではご自宅の方が確保できるとの判断。また、認知がある方の場合、市から提示されている施設をお伝えした。（小規模）
- ・独居高齢者の受け入れ要請があったが、ゲストルームは2室しかいないため2名以外はお断りした。利用者は通常料金にて使用してもらった。
- ・ショートステイの利用が可能かとの、問い合わせが1件あった。当事業所では対応していない為、他のサービス利用を促し、問い合わせ先を案内した。
- ・数件問い合わせあったが、今回停電の可能性もあり困難と判断で断った。
- ・1件問い合わせがあったが、コロナ禍であったためお断りした。ベッドも満床であった。

## 3. 利用の求めはなかった…64

- ・近所に大きい施設があるので、今まで利用の求めがあったことはありません。
- ・病院職員の休憩所（宿泊所）として利用した（通所・訪問リハビリテーション）
- ・災害時は受け入れができるよう体制を整えており、地域にも伝えている。
- ・事業所自体、避難できるスペースがない。
- ・居宅支援事業所で避難受け入れはないが、利用者を福祉施設等へ緊急ショートで調整した。ギリギリのタイミングで入れることができたが、次の相談者は受け入れ難いだろうと言っていたので断られた方もいたかもしれない。在宅酸素の方を緊急ショートで受け入れたが、停電が怖い、レンジや炊飯器も使える蓄電池が事業所があれば、貸し出しするのにと考えた。市の助成金あれば住民も買えるかも。市の助成金あれば住民も買えるかも。レンジが使える蓄電池は20万前後するのではなかろうか。
- ・居宅介護支援事業所。事業所事態が脆弱、居住スペース有さない。
- ・求めがあれば受け入れ体制だった
- ・事前に自治会長やまちづくり振興会から協力依頼はあり、調整していた。問い合わせはあったが、避難された住民はなかった。
- ・自治会長やまちづくり振興会から協力依頼はあり、調整していたが、実際に避難された方はなかった。問い合わせの電話はあった。

## 4. その他…3

- ・職員家族の受け入れを行った。
- ・2件ほどあったが、受け入れ態勢を準備していたものの自宅待機された。

## 回答なし…2

- ・1件、知人宅の住居に避難された（高齢で独居ということもあり）
- ・避難所では、施設が水没したことで、避難所の利用があった。その内の1名、レスパイト入院があった。

**問3 災害時、地域住民等との関わりについて事業所方針があれば教えてください。**

- ・ ない…8
- ・ 未定
- ・ 事業所の近くに、避難場所がある。
- ・ 今後検討しなければいけないと考えているが、現在は災害時の関わりはない。
- ・ 避難訓練に地域住民も参加する方向で計画していたが、新型コロナウイルス感染症の予防のため実行できていない。

**(避難訓練等について)**

- ・ 地域のコミセン等で行われる市が行う災害に関するレクチャーに参加。
- ・ 地域の消防団や女性防火クラブと合同で避難訓練をしている。
- ・ 避難訓練時に同一建物や他の事業所の方々など（介護福祉事業外）と同一に訓練を行う。災害発生時の地域住民との関わりは少ない。
- ・ 防災（消防）訓練は年に2回利用者と一緒に実施している。
- ・ 地域の避難訓練に参加し、また地域の方にも避難訓練に参加して頂いている
- ・ 事業所の避難訓練に地域住民も参加してもらっている。…3
- ・ 避難訓練において地域住民や地元消防団への参加を求めている。
- ・ 消防訓練は過去に地域の方の参加を又・家族の参加もあったが、今後は消防訓練も含め、地震、風水害の訓練にも参加をお願いしていこうと検討している。
- ・ 事業所の避難訓練は併設も含め、年3回以上実施しているが、地域住民参加は検討しているも、ここ10年以上できていない。
- ・ 校区主催の避難訓練（図上）に参加している。
- ・ 地域の防災会議に参加
- ・ 避難訓練と運営推進会議を兼ねて行ったことがある

**(避難所としての施設利用について)**

- ・ 運営推進会議等で避難場所として利用していいと通知している。
- ・ 避難場所の提供について、運営推進会議でも話し合っている。
- ・ 避難所として地域に発信している。
- ・ 避難所として場所を提供…3
- ・ 避難の希望があれば場所を提供する
- ・ 要望があれば、避難所としての場所の提供を検討いたします。
- ・ 避難所として場所を提供するようにしている
- ・ 避難所としての場所の提供は申し出があれば実施している。
- ・ 避難所として要請があれば提供する。
- ・ 特にないが、避難所として希望があれば受け入れる。
- ・ 状況により避難所として場所の提供は可。
- ・ 避難所としての相談はあった為、必要時は可能な事を伝えている
- ・ 土砂災害指定区域に一人暮らしの方から避難するときはこちらに（弊事業所）お願いしますとの申し出があるため、避難時の希望受け入れは行う方針。
- ・ 今後、必要であれば避難所としての施設開放も検討中

- ・当法人は 2 次的な避難施設になっている。
  - ・福祉避難所として場所を提供している。…2
  - ・福祉避難所に併設はなっているが、あまり実績はない。
  - ・コロナのことがなければ、事業所としては避難所として場所の提供は可能。
- 
- ・近隣の避難所には多目的トイレがないため、いざという時には住民にも利用してもらえよう地域と連携を取っている。避難訓練は地域の方にも参加してもらっている。
  - ・自治会長より避難受け入れの要請があった場合は、その時の状況に応じて受け入れの判断を行っている。大雨で近隣の道路等の浸水が予想される場合に、地域住民から要請があった場合は車の避難場所として駐車場を提供している。
  - ・若干、土地が高いため、車の避難場所の協力。
  - ・近隣住民の方のバイク等を浸水しない場所に置いておくスペースは提供している。
  - ・水が濁って飲料にできなかったとき、水の提供を行った。
- 
- ・当法人の久留米市の施設、うきは市の施設が各市の指定避難所として登録、ある施設に関しては、緊急連絡網に地域の区長さんに入ってもらい、応援体制を取っている。それ以外の施設も、緊急避難的な受け入れは可能だが、一時的な取り決めをしており、速やかに指定避難所へご案内する事としている。
  - ・厳密な事業所方針を立ててはいるわけではないが、地域と話し合い、母体の病院が受け入れる体制を登録制で調整している。施設は、緊急時のみ受け入れる事としているが、介護支援は困難であることを伝えている。ただし、法人に関連している方々については、各施設で受入れ体制を作って命の危険がある場合は行政に連絡し、施設対応を行うようにしている。
  - ・水害時の災害も毎年のように発生しているため、地域の方も含めた訓練を計画している。災害時、要望があれば避難所として利用してもらってもよいと思うが、お互いが顔見知りの関係を作らなければならないと思った。
  - ・病院であり、災害時対応できるよう職員を確保。停電対策として発電機を更新し、災害拠点病院の申請を行う予定。
- 
- ・職員の避難（帰れない、当日出勤が困難なため前泊等）スペースも必要なため、場所の提供困難。
  - ・避難所として場所を提供したいが、職員の勤務待機宿泊場となるのでスペースが確保できない。
  - ・事業所周辺が、水没する地形であるため、避難所としての提供はできないが、地域住民との関わり方針は今後考えていきたい。

#### 問 4 非常用として必需品の備蓄（水や食料、おむつなど）は、どのようなものを何日分程、備蓄をしていますか。

- ・特に準備していない…5
- ・デイサービスとしての備蓄はない。
- ・通所介護での備品はしていない。
- ・居宅介護支援にて備蓄等無し。非常用設備準備なし。
- ・宿泊施設ではない為、現在は特にしていない。今後は要検討。
- ・食料はない。（居宅介護支援）ガムテープ備品あり。（台風が続けてくとも考えて自部署用）
- ・各個人で 3 日分の備蓄は行っているが、事業所としては行っていない。（訪問看護）

- ・事業所としては備蓄はないが、法人・園としては備蓄あり。
- ・通所としては備蓄していないが、病院のストックはあり。
- ・現在準備中です。
- ・母体施設が管理している

- ・水
- ・必要に応じてその時々で早めに準備をしている（水）
- ・おむつ等は備蓄あり
- ・おむつのみ 2 パック程度
- ・月に 1 回分は備蓄している。
- ・食料などの備蓄は確保している。
- ・食材については、常時何があっても対応できるよう、冷凍食品や保存食は備蓄している。

### （1～2 日分程度）

- ・乾パンと水、5 年もの 1 食分のみ備蓄している。
- ・飲料水 1 日分
- ・オムツ・水・非常用ビスケットを 1 日分（10-15 人程度）
- ・水、食料を 1～2 日分程度置いている
- ・2 日分程度
- ・水・パン・カップ麺 約 2 日分
- ・水 2 日分・オムツそれぞれの種類を 2 p ずつ常備
- ・利用者定数の 2 日分の水・食事、おむつも利用人数分を備蓄。
- ・2 日分程度の備蓄を台風や大雨等災害が想定される際は、備蓄している
- ・水や非常食、衛生用品、生理用品等、人数にもよるが 2～3 日分は備蓄をしている。非常用の電源、電池も一応確保。
- ・食料品（2 日分）水（4.4 m<sup>3</sup>）おむつ（20 日分）
- ・アルファ化米非常食、エネルギーゼリー・クッキー、飲料水 2～3 日分

### （3 日～5 日分程度）

- ・3 日分を目安に準備している…5
- ・水、飲料、おむつ等を 3 日分…3
- ・飲料水、食料は 5 人分を 3 日分程度、おむつは在庫あり
- ・水と食料を入居者数×3 日分（火を使わずそのまま提供できる備蓄品）
- ・入居者、職員分を 3 日分確保している。
- ・水、米飯、⇒3 日分程 おむつ等
- ・水 3 日分、食料 3 日分、おむつ 2～3 日分
- ・食料、水、経管栄養など 3 日分程度
- ・水・食料・オムツ・医薬品などが 3 日分
- ・レトルト食品、アルファ米、水等 50 名分、3 日分を備蓄。
- ・飲み水・食料（パンの缶詰・ビスコ）を 3 日分備蓄している。
- ・飲食物品、衛生用品、燃料や電池、医薬品等を 3 日程度備蓄している。



- ・水や食料は3日分、おむつ類は1週間程度
- ・食料は3日分程度、飲料水やおむつ等消耗品は病院本部にて備蓄
- ・法人が病院のため1入院定数×3日分の備蓄あり 事業所としてはない
- ・特養3施設では、委託先の厨房業者により、およそ3日分の備蓄食料を確保している(非加熱製の食材など)、水に関しては各施設基準値より少ないが確保している。その他、オムツや日常生活上必要なものは、備蓄として個別に確保していないが、常にある程度の在庫を確保しており、数日間ライフラインが断たれても対応できるように努めている。
- ・水や食料は3日分、オムツ類は約1ヶ月分
- ・法人の備蓄もあるが、4日分程度の飲料、水分はストックしていた。
- ・水、おむつは備蓄4~5日分程度はあるものの食料は特に行っていない。
- ・水4~5日分、カップ麺1~2日分、カレーのもと1~2日分、クラッカー1~2食分、魚の缶詰1日分。日頃よりガスを利用している。
- ・住宅型では2~3日分の水・食料。おむつ等は常時在庫管理。デイサービスでは備蓄なし。
- ・病院としては100人分を3日間準備しているとのこと(入院患者さん用)。デイケアとしてはなし。
- ・デイサービスには備蓄はない。併設(特養、養護、ケアハウス)には、水や飲料は3日分備蓄している。
- ・水、利用者及び職員用食事3日分、オムツ等4日分
- ・食料は3日分。水は発電機にて確保。オムツ等は十二分に確保。
- ・水、食料は3日分。おむつ1か月分。
- ・水、茶、飲料などの備蓄は3日~5日分、おむつ、尿パッドなどは約1か月分を備蓄している。
- ・水は備蓄用3日分+(タンク有)。おむつは約2週間分、カセットコンロ6本、カップ麺、クッキー、野菜ジュース等と法人全体で給食室の備蓄庫に缶詰、完調品等約3日分。
- ・水や食料を5日分。おむつ等は、事業所の備蓄として管理している。

### (1週間分以上)

- ・水(ペットボトル)食料(米やレトルト缶詰)1週間分・衛生用品おむつパッド類1か月分
- ・GHが併設である為、約1週間分ほどの冷凍食を備蓄している。
- ・食料1週間分、電池類、ストック2本分
- ・保存水 2L入り・500ml、白飯、味噌汁、野菜カレー、鶏そぼろ缶、ビスコ缶1週間分ほど。紙パンツ、おむつ、パッド等。
- ・水、食料3日分程度、おむつ1週間以上、ガスコンロ2台
- ・水、おむつ、衛生材料等 約1週間分/4人
- ・水害や非常時の避難場所として隣のグループホームになっており、そこに2週間ほどの備蓄がある。

### (その他の備蓄について)

- ・アクアブロック(土のう)20枚、布コロナマスカー 1個 備蓄している。
- ・水や飲料は考えなかったが、非常用として処置(ガーゼや他)セットを用意したりした。おむつも多めに用意し、施設個人宅にも持って行った。
- ・1~2日分の飲料水・パン・非常食を準備している。また、停電に備え、ランプや懐中電灯も準備している。窓ガラスが割れた場合を想定してベニヤ板(4~5枚)等を購入。入居者の生活に必要なオムツ等については業者を話し合いながら調整している。

その他、自由にご記入ください。(災害時の地域における避難についてご意見いただければ幸いです。)

- ・ハザードマップを活用している。
- ・災害時、マニュアル作成済み。災害時の連絡体制強化システム、チェックリスト作成。
- ・水害：垂直避難、スロープを利用して避難訓練を行っている。
- ・台風だけではなく、地震や水害なども視野に各マニュアルを通して対応していくことが必要かと思う。
- ・利用者用備蓄などの備えは必要だが、事前に予測を立てて、休業などの判断を管理者と検討していくことが重要。
- ・水害時はハザードマップの活用、冠水してしまう場所の把握をし、情報交換している。また、運営推進会議時に近隣ではこの場所も高い位置である為、避難できることもお伝えしている。
- ・台風接近時、ケアマネージャーや包括支援センターより利用の申し込みが10件ほどあったが断らざるを得なかった。また、代替えの受け入れ施設の提案もできず、施設としてこのような体制でいいのか課題として残った。入居者・利用者の安全を確保することが第一ではあるが、地域住民の受け入れについても前向きに検討したいと思う。
- ・地域と連携してはいるが、コロナや感染症の季節には利用者以外の方の避難の受け入れは難しいと感じた。

#### (障害や認知の方の避難について)

- ・法人が病院のため、近隣居宅から医療ニーズの高い利用者の一時入院等は行った。(酸素・吸引が必要等)
- ・今回はありませんでしたが、災害後、被災にあったお宅にお迎えに行った際に行方が分かるかどうか不安(安否確認の仕方)
- ・要介護者の家族より、身体状況から避難場所で過ごすのは困難と相談を受け、ショートステイの調整が必要だったケースが数件あった。
- ・一般避難所に簡易ベッドの充実(高齢者避難しても2~3台しかなく予約不可。)
- ・一般避難所では密になるし、ハード面も整っていないところもあり、障害のある人が避難するのは困難だと思う。個室対応できる有料老人ホームに自費で宿泊された方もいた。避難所(福祉避難所も)の確保はご本人だけでは難しく課題ではないか？
- ・移動の安全を考えた場合、早めの判断が必要となると思うが、認知の方の環境が変化することによる混乱の点、また、現施設がよほどの状況にならなければ泊ったほうが良いと考えられることを合わせた場合、判断が難しい。
- ・認知症の方たちが災害時、避難所生活についてですが、色々な問題があります。その場所(避難所)にいらっしゃる行政(担当)の方や自治会の方達はどこまで配慮してくださるだろうかとか。特別な配慮が必要な方向けの(福祉避難所)等あれば。久留米市には何か所くらいでしょうか。
- ・酸素(在宅酸素)吸引、人工呼吸器装着している方は把握され、避難場所の確保ができるが、気管切開している人や鼻腔や口腔から痰の吸引が必要な人の避難場所がない。電源確保や場所の確保が難しい。障害を持つ方も避難が難しい。
- ・在宅の要介護者が避難の場合はご家族同伴・対応をお願いしたい。水・食料・布団等の提供は難しい。避難時の場所の提供はできるが、ベッドまでの確保は難しい。災害時の避難が数日に渡る場合の対応は難しい。

- ・今回は早い段階でSS利用先が埋まった。独居、高齢者世帯を優先的に手配をしたが、その後家族同居である方、住居の強さに自信ない方等避難先探しの相談を受けた。避難所に避難された方もいたが、寝台が無い、あっても硬くて眠れない、トイレが遠い等問題があった。久留米市では台風の場合は福祉避難所を開設する事にはなっていないとのことだが、今回のような甚大な被害が予想できるものについては、例外で福祉避難所を開設していただいても良いのではとも思った。『#食事提供は無し』『#家族介護者が同伴』『#介護サービスの提供はできない』等条件付けでも受け入れて頂ければありがたい。
- ・地域密着型の事業所なので相談があれば受け入れたいと思っています。しかし、医療依存度の高い方も利用されているので、感染症のリスクを考えると知らない方を積極的に受け入れるのは難しいと考えます。(施設も大きくないので)仮に相談があった場合 他をご紹介するなどのいくつかの候補などがあってご案内できるようなシステムがあるといいのではないのでしょうか。今回の台風はコロナ感染症のことから避難所も利用できる人数が少なくなっているためホテルを利用されることも多かったと聞きます。行政からホテル等を借り上げるなどの手段はとれないのでしょうか。
- ・コロナ禍で避難所も限られ、さらに行動障害等の理由で避難所利用ができない方もいる。災害が長期化した場合に1法人ですべての利用者を対応するのは困難である。利用者それぞれの友人や家族宅への分散避難についても検討を進める必要がある。
- ・避難先としてあさひクリニックを指定していますが、現実的には一時避難程度でなるべく早くご自宅に送迎することになるとしています。
- ・事業所の近隣には高い建物がなく、避難所への移動も車となる為、途中何があるかわからないので早めの決断が必要と思う。
- ・避難のタイミング逃すと、避難場所へ行く途中が危険。道路と水路の区別がつかないほど水没(ガードレールが必要な場所がある)。
- ・デイケア利用中の急な災害(豪雨・台風等)で帰宅困難になった場合の対策が不十分と認識している。これから検討していく。
- ・地域との避難について関わりがない。自分の施設のことではいいいっばいだった。
- ・当施設は氾濫、土砂災害どちらもハザードマップに該当しているが、今までの経験上、本来の避難場所であるコミュニティーセンターに避難するよりも、自らの建物の2Fへの避難が一番安全になる(高台であり、水に浸かる心配もなく、コミュセンより土砂災害発生の想定箇所より遠い)。また当事業所は通所介護のみの為、台風等のあらかじめ想定される事業については休業の選択肢をとることができる。
- ・蓄電池の助成金(在宅酸素・人工呼吸器を動かすため、在宅用)
- ・ショートステイ施設の増
- ・当院の廻りは雨が多いと水没しやすく、水路等の整備をお願いしたい。災害医療に対応できるように。
- ・避難所の場所確認はできるが、水没する道を教えてもらいたいのと、台風当日高速が中止になり、3号線がものすごい渋滞となって、道路が動かなかった。私たちの今後の教訓になった。
- ・災害時に備え、自施設だけでなく、他施設とも応援、連携体制がとれると良いと思います。
- ・このアンケートのアドレスがQRコードで表示されているといいなと思いました。